

全国公立学校退職教頭会

会報

第64号

平成29年3月31日

東京都港区愛宕
1-6-7
愛宕山弁護士ビル
403号

発行責任者
会長 山浦 朝日

児童・生徒の自殺を憂う

全国公立学校退職教頭会 顧問 中込 武夫



北茨城 五浦海岸 六角堂(2016.12.9)

過日の新聞紙上で、文部科学省の調査発表は、いじめや自殺者数が年々増加傾向にあると報じている。その内訳は、小・中学生が最も多く、次に、高校生が続いている。

これらのいじめや自殺の原因は多岐にわたり、加害者の数や動機も複雑である。言語的・物質的・精神的等の方法による、直接的手段や間接的手段は、被害者の心を迷わせ、暗闇の世界に押し込める。その結果、被害者は苦しみから抜け出す方法として、自らの命を絶つ以外、自分の心を苦しみから救出できる方法はなかったと、遺書等に綴られている。

その前に被害者は、親や友人さらに学校等に本人自身でそれなりに、また、親は、わが子の心情を切々と訴えての結果の自殺である。被害者が暗い道に迷う心をすばやく拾い上げ、その対策を教師間、さらに学校関係機関と連携し処理していたらと、慚愧に堪えない心情に、退職教師の一人として、胸が張り裂ける思いである。

学校は、児童・生徒や保護者にとっても、安全に学び合い磨き合い成長し合う教場であり、保護者は、

苦難を乗り越えて我が子がそこで成長することを期待している。そして、教師は教科指導・生活指導・部活動等に常時対応し、児童・生徒の心と体の成長を期待して、その対応法の研鑽に励んでいる。児童・生徒はもとより保護者も、その教師や学校の真剣な教え導きを期待し信頼している。

しかし、この期待や願いに反する行為が、教師の授業中等の中で数多く発生したと報じられた。その結果、尊い教え子の命が絶たれたとの報道を耳にする。授業中等の割合は、前記総数の十数パーセントを占めるといふ。児童・生徒が学ぶ学校内の実態は、受験競争に関わる塾通いにより、友情を確かめ合う機会は減少し、学び合い教え合う雰囲気も不足気味となっている。競争から起る不信や疑念と友だちとしての信頼が混在し、その中から、いじめ等の芽生えが発生する。この時こそ教師の細心の配慮が限なく続けられ、道に迷う児童・生徒の心を救助せねばと思う。同時に、学校には幾多の苦情が寄せられてくる。ある時には、教科指導法につき、さらに、学校運営の方法や学校の施設に至るまで、保護者が直

接し、時には、行政を通じて、悩みや苦情を訴えてくる。児童・生徒に関わる教師はもとより、学校経営に直接かわる担当者は、本来の職務の処理と合わせてその対応にも神経を使い続ける毎日である。だが、学校は、これらの悩みや苦情にも正しく対応し、正常な学校教育を保証せねば、保護者や社会の期待に応えたいと言えない。

一方、政治経済等による社会環境の変化は、日本全地域に影響し、学校や家庭生活も、児童・生徒の学習環境や日常生活も、その影響からは逃れられない。これらの諸実態を全教師が理解した上で、温かく見守りつつ、学習中の表情や身体の状態等を一人ひとりの児童・生徒について注意を払い、変化に気づいた時は、全教師の深い関心と行動ですばやく問題解決に取り組み、時には、専門関係者の協力を得なければならぬ。

この実践は、文部科学省が発行する資料等を全教師が理解し正しく生かす中で、効果が期待できる。最近の報道内容によると、個人や学校の名を心配し、校外に情報が漏れるのを避け、事故を深刻化した事例を聞いている。文部科学省は、いじめや自殺等の防止について、繰り返し文書で具体例を例示し、その指導方法等にかかわる文書も発行した。

深刻ないじめ等に関わる数多くの調査報告を目にする度に、指導にあたる教師集団は、学習指導のすべての機会をとらえるばかりでなく、校内活動の全領域の中で児童・生徒の心身の異常を拾い合い、個からグループ、さらに、全校組織の中で指導法や対策のあり方について学び合う学校運営を、切に、期待したい。

小さな命を救うため、教師一人ひとりが心に刻んで、日々実践されることを、切望している。

各県の会報誌に掲載された
会員の皆様の投稿文から選んで載
せてあります

山口県

会報第五十八号より

「花燃ゆ」史跡の町

防府市へおいでませ

第四地区幹事 中田 敦人

今回かなめ会から、会報の記事として、また総会の引き受け地区（第四地区）の記事として、防府市の紹介をしたらどうか、との要望がありましたので書くことにしました。お受けしたものの、防府市の紹介と言っても、歴史文化、産業、神社、仏閣、人物等大変幅広く、何を書こうかと考えました。皆さんの方がよくご存じだと思いますが、私なりに書いてみました。

今年、NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」が放送され、その中の登場人物の一人「榎取素彦」（元の名は 小田村伊之助）が二十年間も防府に住んでいる重要な重要役について活躍されたことを知りました。吉田松陰を取り巻く志士の中でもリーダー格の一人でした。

遊学に出ていた吉田松陰と出会い深くつき合うよ

うになりますが、安政の大獄のかかりで吉田松陰は処刑され、その後、松下村塾を託され活躍しました。その後も、国や県の重要な役割を果たしました。明治九年には群馬県令（今の県知事）として就任し、その時に現在世界遺産に登録されている富岡製糸工場の経営危機を救う大きな働きをしました。

（教育に関する関わりも大きい）

（ちよつと追加…このことを聞いていましたので、世界遺産めぐりでこの富岡製糸工場見学をしました。その時、説明を聞いたのですが、工場の機械の話が中心で、経営、生糸の販売、女工史、工場が出来たという理由の説明はありませんでした。榎取素彦の名前も聞けなかったので期待はずれでした。）

このことについては、後日になって私なりに何となく、なるほどと感じたことはあります。それは、榎取素彦が、高杉晋作や西郷隆盛のように人の前に立つて旗を振るような派手な人ではなく、坂本龍馬のように人と人の心を繋ぐような行動をとっていたからではないかと思いました。

防府の紹介が、榎取素彦のことが中心になってしまいました。が、「榎取素彦ゆかりの史跡が十九カ所」「明治維新ゆかりの史跡が十八カ所」あります。

現在防府市では、大河ドラマのイベントとして①「志士闊歩

日本橋の町

防府天満宮



の地防府」という見出しで宣伝しています。前記のようにたくさんの方の見学所があります。また見学地を巡る周遊バスも「花燃ゆコース」「志士闊歩コース」「幸せコース」等、いろいろな団体、グループに応じたコースがあります。また、各所の割引券も発行されていますので、是非一度ご覧になってください。

佐賀県

創立二十五周年記念誌より

百歳の夢

小城市 西久保 安隆

毎年催す旧制中学の頃の同窓会で最近旧友の訃報を耳にすることが多くなった。卒業以来一度も会わず、是非会おうと約束した横浜にいた親友が、昨年神戸で催した同窓会の数日前に急逝した。それを聞いた時はショックだった。そのせいでもあるまいが、毎朝、新聞を読むとき、「おくやみ」の欄について目が行ってしまう。卒業生達と飲む機会を持った折、酒の勢いで「君たちの弔辞は俺が読む」と悪態をついたら、「先生の葬儀委員長は是非、私にやらせてくれ」とやり返された。

冗談を交わす四・五十代の生徒諸君の中にも、私より先に逝く者も結構いるようだ。元気でいるうちは自分が死ぬなんて、あまり考えたことはない。しかし、その時が近付きつつあることは事実である。

楠和会の先生方も、そのやり方こそ異なっている